

まで空缶やゴミ拾いの環境ボランティアを行ないました。その後、現地で香川大学講師の山本正幸先生のご指導による「野鳥観察」を行ないました。帰路、藤井学園寒川高等学校のバスケットやバレーボール部の生徒たちが、環境ボランティアに自主的に参加してくれました。

十二月八日

この日藤井学園寒川高等学校の野球部の生徒たちが、再度、自主的に公民館の方に来てくれました。そして、B&G体育館や農村環境改善センターの倉庫の清掃ボランティアをしてくれました。

この間、町内小中学校の校長先生にも講話をして頂き、皆様のご協力とご援助で、初期の目的を達成することができました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

サンポートホール高松見学記

三浦良文

五月開館したサンポートホール高松（高松市文化芸術ホール）を七月二十七日見学しました。

広い外廊下で空を覆う巨大建造物に圧倒され、ガラス拭き、鉄材の塗装、破損の修理等莫大な維持費の負担を危惧し、溜め息が出る。

各ホールと付帯施設を案内されたが、市文化芸術ホールとし

ての初期投資が二五〇億円と聴いても、巨大建物なのに人が少ないという以外実感が湧かない。技術的詳細説明は充分理解できないが、搬入設備、音響反射板、残響可変装置、オーケストラピット、難聴者設備、同時通訳設備等最高の設備があり、客席はゆったりで、各ホールとも車椅子席、親子席に優先配慮がなされていました。

大ホール（一五〇〇席）は多機能設備を变幻自在に駆使した最適活用が不可欠だが、技能者確保、時間との戦い、経営効率、等運営上の難関が痛感させられます。

第一小ホール（三一二席）は舞台と客席の一体感、親しみやすさで市民の芸能活動の発表会に最適で何とも羨ましい限りでした。

第二小ホール（三〇八席）は平土間で、床面から舞台も階段状固定席もせり上がるそうだが、体育館が劇場に変わるのかという感想しか湧きませんでした。施設は立派で感服するほかな



▲サンポートホールのステージから望む

いが、それだけに見事な運営への市民の期待も大きい筈です。ふさわしい催物をどう確保するか、施設の機能を生かすのに必要な多数の人員や多額の運営費をどうやって確保するのか、難問は尽きないと思われま

例えば、設備、備品の「使用料」は安価で運営費の極く一部を補填するにすぎず、「友の会」（さんぽーとクラブ）への入会や「文化ボランティア」参加への募集をしているがまだ未知数です。

又、大ホールでカラオケ発表会に出た中年女性の話「待ち疲れ、汗ビツシヨリ、メークは落ち、長い廊下に迷い、尋ねようにも人居らず、舞台の出入りは一方通行、忘れ物してホールを一回り。散々でした。」主催者の不慣れもあつたのでしよう。

今後、運営が成功することを期待し、一年後に実績を踏まえた苦心談をぜひ伺いたいと心残りのままに、サンポートホール高松をあとにしました。

香川県文化協会集会

長尾松榮

開会日 二〇〇四年十一月十四日
集合場所 琴平町公会堂

琴平公会堂は昭和八年に二億四千万円をかけ、天皇陛下のお泊まりになられた奈良ホテルの天井の照明やドアの金具などを



▲金丸座での見学

模して建てられた。かつては香川県一、大きい会場であった登録文化財である。現在は畳を廃し板張り椅子席となっている。開会挨拶 副会長 石原光久氏
講演「琴平の歴史と文学」
作家 琴平文化協会会長

佐々木正夫氏

香川県文化協会集会が文化人の意義深い集会となるように、今日は琴平の文学・歴史を紅葉も堪能して欲しい。琴平の文化協会員は七百名で香川県展に入選以上の方が百二十名もいる。金刀比羅宮の宮司は貴族でお誘いしても文化クラブに入られない。

午後から始める文学散歩コースは「金丸座↓奥書院↓表書院↓高橋由一館↓虎屋↓文学碑（与謝蕪村・松尾芭蕉・小林一茶句碑、吉井勇・久保井信夫歌碑他）」十二時三十分出発

佐々木正夫氏に案内されて

金丸座

天保六年（一八五二）に建てられた現存する日本最古の芝居小屋である。昭和四十五年に「旧金毘羅大芝居」として国の重要文化財に指定される。平成十

五年に復元及び耐震構造補強工事、平成の大改修が行われ、発見された痕跡より「ブドウ棚」と「かけすじ」を復元し、より江戸時代の情緒あふれる姿に再現している。

「ブドウ棚」は、竹で編んだ格子状の天井で花吹雪も散らすことができる。「かけすじ」は役者が宙乗するための装置で花道の上を天女が宙を舞った。現在も竹で組んだ装飾が着々とできていく。

奥書院

平成の大遷座祭斎行記念に百二十五年ぶりの一般公開に巡りあう重要文化財である。別当の住居だった奥書院は、江戸時代の人気画家、伊藤若冲の「花丸図」や、岸袋の「群蝶図」という色鮮やかな障壁画で飾られ息をのむ美しさに満ちていた。

金刀比羅宮神域の文学碑
・花の陰硯にかはる丸瓦 芭蕉
裏山道 噴水の上 自然石
・おんひらひら蝶も金比羅参哉
旧社務所の下 一茶
・御屏開けの太鼓の音は朝靄の
なづさふ谿にながく齧す
旧社務所の下 久保井信夫

